



第15回ハンディキャップ競技九州大会

競技報告 (2017/ 10/ 25)

写真と記事 : M. Kikutake

男子はG78、N69で寿々木孝嗣 (愛野、66歳)

女子はG83、N69で堤寛子 (チサン森山、34歳)

第15回ハンディキャップ競技 (Hdcp) 九州大会は10月25日、熊本県益城町の高遊原カントリークラブ (男子6502ヤ、女子5890ヤ、パー72) で行われ、男子はグロス (G) 78で回った66歳の寿々木孝嗣 (愛野) がネット (N) で3アンダー、69をマークして初優勝。女子は34歳の堤寛子 (チサン森山) がG83、H14、N69で初優勝した。ともに同大会は初出場での栄冠だった。

大会はJGA杯J-sys選手権の予選を兼ねるもので、参加選手各自が持つJGAハンディキャップインデックスを基に開催コースのスロープレーティングによるコースハンディキャップを算出して適用し、実施された。

この日の熊本 (益城) 地方は晴れで気温19.5度、北の風4.4m/sと好コンディションの中での競技となった。



男女ともに長崎勢が大健闘

男子は121人が出場 (欠場3人)。そんな中、寿々木は前半、2ボギー、1ダブルボギーの40で折り返したが、後半は1バーディー、3ボギーの38と踏みとどまり、ハンディ (H) 9のN69とした。57歳の矢野祐二 (セブンミリオン、H10) がG79で同じくN69をマークしたが、大会規定によるマッチングスコアカードの結果、2位。矢野はインスタートで1バーディー、4ボギー、2ダブルボギーの43を叩いたのが響き、後半1バーディー、1ボギーと追いつけたが、及ばなかった。

3位は宮本信也 (喜々津、43歳) でG78、H8、N70。松尾健史 (不知火、50) がG94、H24、N70の同ネットで並んだが、マッチングスコアカードの結果、4位となった。また、男子のベストグロスは77の本田雅稔 (司ロイヤル、50歳) でH2のN75で25位だった。

28人が出場した女子 (欠場1人) は堤がベストスコアタイのG83をマーク。H16の宮崎育子 (野母崎、57歳) がG86で追いつけたが、Nで1打及ばず2位。3位はG85、H13、N72でベテラン田倉美月子 (肥後サンパレー、63歳) だった。

参加最高齢は男子が76歳の神原武男 (周防灘) でG87、H7、N80で78位。女子は76歳の犬童アヤ子 (くまもと城南) がG86、H11、N75で7位と善戦した。

男女各上位 8 人が全国大会出場権を獲得



この試合の結果、11月28日に京都府の田辺CCで行われる第8回JGA杯J-sys選手権（JGAアンダーハンディキャップ競技）は男女とも上位8人が出場権を得た。

（写真はJGA杯J-sys選手権出場を決めた男女のメンバー）



男女ともに初挑戦組が優勝

「いいゴルフで気持ちよく回れた」寿々木孝嗣

「キャディーさんに助けられての勝利」堤寛子

優勝したのは男女ともに、今大会が初挑戦と言う2人だった。

○…男子の寿々木（すすき）は滑り出しは順調だったが、1ボギーのあとの7番（パー4）第2打で自身「記憶にない」というシャンクが飛び出し、ダブルボギー。この後8番もボギーとしたが、「かえてこの2ホールが気を引き締めてくれた」と言う結果になった。後半は1バーディー、3ボギーと大崩れすることなく、2オーバーにとどめ、優勝を引き寄せたのだ。

朝一のショットはドライバーでなくスプーン（3番ウッド）で。「いつもこのショットがその日のラウンドを占う」と言い、この日も真っ直ぐ行き、結果的に「アプローチもうまくいったし、心の余裕が生まれてラウンドができた」という。

実は、長崎県内のペニンシュラ・オーナーズGC、愛野CC、島原CCの3ゴルフ場を束ねる代表取締役。各ゴルフ場の運営体制を整えるのが忙しく、それが落ち着いた今大会は実に11年ぶりの連盟競技出場だそうだ。11年前は九州シニア5位で日本シニアにも出場した。

久しぶりのGUK競技に、今度はJGA杯J-sys選手権初挑戦になる。「今日はいいゴルフで気持ちよく回れたし、（日本選手権も）気楽に楽しむだけです」と柔和な笑顔を見せた。

○…一方の女子の堤。「いつも、こんなものです」と言いながらも、「パターが良く入った。キャディーさんの読みが素晴らしかった。助けられた」と優勝に笑顔を見せた。

元々が熊本・大津の出身で、熊本信愛女学院高時代は陸上短距離の選手。ゴルフは高校卒業後、阿蘇グリーンヒルCCにキャディーとして勤めているとき、先輩に勧められてクラブを握ったのが始まり。当初は楽しむゴルフだったが、アマ競技にも出始め、結婚して長崎・諫早に移ってからは「オフィシャルハンディーが欲しい」とコースのメンバーになった。

初参加で初優勝。で、日本選手権出場も初めて。「自分のできることの最大限のことができれば、ゴルフができる喜びを感じながら、頑張ってきます」と抱負を語ってくれた。